

令和3年度 荒川下流域を対象としたタイムライン専門部会（第3回）

議事要旨

日時：令和4年2月28日（月）15：30～17：00

開催方式：Web（Teams）

1. 開会挨拶

○荒川下流河川事務所所長

荒川下流のタイムラインは平成27年に始まり、平成29年に16市区へ拡大し、現在、拡大試行版で運用しています。

令和3年は日本周辺で22個の台風が発生し、タイムラインは5回適用されました。また昨年は、沿川自治体、都県、气象台、有識者等による荒川下流タイムラインWEB運用会議が試行され、台風の勢力、予報進路、過去の洪水における雨量と水位等について関係機関で情報共有が行われました。

昨年5月に実施したタイムライン専門部会（第1回）では令和元年東日本台風において課題となった流域の危機感の共有や関係機関における早期対応の意思決定について述べましたが、これらを踏まえ、今年は新たに「荒川下流域水防災タイムライン」の検討を行ってきました。

本タイムラインは、今年度から始まった流域治水の取組としても大変重要と考えています。関係者の皆様と共に、強いパートナーシップのもとで、大規模水害時に真に役立つタイムラインとして深化させていければと考えているので、ご協力をよろしくお願ひします。

2. 荒川下流域を対象としたタイムライン（事前防災行動計画）専門部会

規約の改定について

事務局より資料の説明が行われた。

■関係資料

◎資料1 荒川下流域を対象としたタイムライン（事前防災行動計画）専門部会規約（案）

議事1について、意見はなかった。

3. 荒川下流域水防災タイムライン（流域タイムライン）の導入について

事務局より資料の説明が行われた。

■関係資料

◎資料2 荒川下流域水防災タイムライン（流域タイムライン）の導入について

◎資料3 台風性降雨シナリオによる流域警戒ステージ設定（案）

○松尾アドバイザー

事務局から、流域水防災タイムライン、流域警戒ステージの説明が行われた。荒川下流では、タイムライン拡大試行版を試行運用し、ワークショップ等を通して改善を図ってきた。ここ最近では、流域単位にL2クラスの雨が降るようになってきており、流域治水としてハード対策が推進されてきているが、ソフト対策も流域単位で考えていくことが重要である。2019年台風19号（令和元年東日本台風）では、3市13区で災害対応のトリガーがバラバラであったが、本来は、流域全体で危機感を共有することが重要である。これらに資する一つの基準が現在検討している流域警戒ステージであると考えている。過去の大きな洪水を整理すると、荒川下流では、台風による出水が多いことが分かっており、今後、具体的な基準については、皆さんと意見交換しながら決めていきたい。また、現在流域タイムラインは国で先導して行われているが、担い手が不足する自治体で流域タイムラインを推進させるための予算や人材についての手当てはない。こうした課題や背景がある中で、流域水防災タイムライン、流域警戒ステージを検討していることについても知っておいてほしい。

○内閣府

流域タイムラインについて、「流域タイムラインWG（仮称）」による検討は、令和4年度と令和5年度のどちらで行う予定か伺いたい。また、令和5年度に検討予定の流域タイムラインにおける中小河川、土砂災害、高潮の流域警戒ステージの検討については、高潮の0Hの設定や、鉄道の計画運休を踏まえたリードタイムの設定が課題となり、自治体の意見を踏まえて議論が必要になると思う。

⇒事務局

「流域タイムラインWG（仮称）」による流域タイムラインの検討は、令和4年度から実施したいと考えている。構成メンバーは現在検討中である。また、マルチハザードに対応した流域タイムラインの検討を進める予定だが、ご指摘の通り、高潮の0Hの設定やリードタイムの設定が課題となる。中小河川の流域警戒ステージ検討のための情報は概ね収集できているが、高潮は過去の洪水の例が少なく、活用できるデータがほとんど無いのが実態である。現状、流域警戒ステージの検討方法のアイデアとしては、中小河川ではキキクル等、高潮ではアンサンブル潮位予測等が活用できるかと考えているが、こうした検討手法も含めて今後議論が必要と考えている。

⇒松尾アドバイザー

内閣府の指摘はとても重要である。高潮を考慮した流域警戒ステージの検討では、広域避難の話が必ず関係してくる。現在、荒川の氾濫に備えた広域避難を検討している内閣府には、是非、流域タイムラインの検討にも関わってもらいたいと考えている。

○内閣府

流域警戒ステージⅣのトリガーが、治水橋の氾濫注意水位 AP+7.5m となっていたが、氾濫危険水位は AP+12.7m とかなり差があるため、例えば、上流の熊谷の水位をトリガーとして参考にする 것도検討したら良いかと思う。

⇒事務局

流域警戒ステージの検討に参考にする。

○東京管区气象台

流域警戒ステージⅡのトリガーである埼玉県の日最大雨量 200mm は少ないと思う。過去の例からみても、流域平均雨量は 300mm 以上の例が多く、埼玉県の日最大雨量は秩父で予測されると考えられるが、2019 年台風 19 号（令和元年東日本台風）の際も日最大雨量 500mm の予想であった。これらを踏まえると、日最大雨量は 250～300mm 程度、流域平均雨量は 200mm 程度をトリガーとするのが適切かと思う。加えて、早期注意情報もトリガーの検討に活用すると良いかと思う。

また、高潮を考慮した流域タイムラインを検討していくことも重要と思うが、情報を加えすぎてタイムラインが複雑にならないよう留意していただくことも重要と思う。

○松尾アドバイザー

是非今後、気象の専門としての具体的な提案をお願いしたい。

4. 荒川下流域水防災タイムライン（流域タイムライン）（素案）について

事務局より資料の説明が行われた。

■関係資料（なし、流域警戒ステージ整理表（イメージ）画面共有のみ）

○松尾アドバイザー

本日は流域タイムラインの具体的な形は示していないが、今後、皆さんと議論していきたい。令和 4 年度より全国の河川で流域タイムラインを策定することとなっているが、現在検討している流域タイムラインが全国の先進事例になると考えている。来年度台風期に向けて危機感を持って進めていきたい。

5. 今後のスケジュール

事務局より資料の説明が行われた。

■関係資料

◎資料 4 今後のスケジュール

○葛飾区地域振興部危機管理課

江東 5 区では、現在、大規模水害の可能性を踏まえたハザードマップやタイムラインを検討しており、事務所や内閣府、鉄道機関等と連携して江東 5 区のタイムラインを検

討しているが、これらと流域タイムラインの整合性についてはどう考えているか伺いたい。

⇒事務局

現状では、具体的な方針は示せないが、今後、WG 等を通しつつ、皆様とタイムラインの整合についても議論していきたい。

○東京都建設局河川部

荒川下流域水防災タイムラインの検討では、東京都の管理河川も対象になると伺ったが、WG の構成メンバーや対象河川について、現時点で分かる範囲の情報を伺いたい。

⇒事務局

現状示せる資料はない。東京都は必ず関係してくると思うので、WG の対象河川等について意見交換を行うことを予定していたところである。

⇒松尾アドバイザー

江東5区のタイムラインについて、広域避難の実効性の課題は十分に理解しており、広域避難の実現に向けてタイムラインを活用していくことは有用であると考えている。

また、中小河川の流域タイムラインの検討については、初めから全ての中小河川を対象にするのは難しいと考えている。まずはモデル区を選定し、中小河川のタイムラインの検討を進める形が良いかと考えているが、東京都建設局河川部とも一緒に議論していきたいと考えている。

6. その他

松尾アドバイザーより資料の説明が行われた。

■関係資料

◎資料5 タイムライン国民会議について

7. 講評

○村中アドバイザー

自分自身、全国各地でタイムラインに関する業務に携わる中、荒川下流のタイムラインの取組についても理解しているつもりである。相当な人口を抱え、政治や経済の中心である3市13区におけるタイムラインの検討は簡単ではないが、かなり重要と考えている。今後機会があれば、主に気象に関する内容で支援していきたいと考えている。

○松尾アドバイザー

1時間半でかなり闊達な意見交換ができ、各機関でかなり危機感を持っていることが認識できた。コロナ禍で顔の見える関係が作りにくいのが、少しずつでもタイムライン防災を地域に浸透させていければと考えている。

8. 閉会挨拶

○荒川下流河川事務所品質確保・防災企画室長

以上を持ちまして「令和3年度荒川下流域を対象としたタイムライン専門部会（第3回）」を終了します。

以上